

田植えが始まりました

能登 いまい農場だより 5月号

お買い上げ頂き、ありがとうございます。

4月下旬から5月の連休で大部分の水田の田植えが済みそうです。

当農場では、5月いっぱいかけて田植えを行う予定です。

皆様いかがお過ごしですか？

■田植えを始めました

当農場でも、4日から田植えを始めました。

今年の早生は3品種、ハナエチゼン、ゆめみづほ、能登ひかりを栽培します。なかて種はコシヒカリ、カグラモチ。晩生種は、新品種のひやくまん穀(石川65号)と大粒ダイヤを栽培予定です。

コシヒカリは作付けの7割ほどで、ほかの品種は少しずつです。ちょっと作付け品種が多いかなとも思うのですが、これも競争が激しくなり、売やすい品種という意味で作付けします。

中でも、新品種の「ひやくまん穀」はやや大粒の品種で冷めても美味しく、おにぎりに向いているといわれています。「大粒ダイヤ」も同じような品種でどちらが作りやすいか比較してみようと思っています。「ひやくまん穀」に関しては、金沢の(株)芝寿しさんで、生産者限定のこだわり米として販売してみたいとの希望もあり、作付け前から販売先が確保されそうです。

■今年の特別栽培米こしひかりの大部分は100%有機肥料で栽培します。

有機栽培をのぞき、育苗時に化学肥料を約1%ぐらい使っていたのですが、今年からは特別栽培米といえども全面的に有機肥料に切り替えています。

■自然栽培と有機栽培

この栽培法の違いが分かりますか。

お隣の羽咋市では、農協と、市が若者向けに自然栽培塾なるものを年、数回開催し、全国から若者を集い、定住化につなげようと事業化し取り組んでいます。

ある時、娘の知人が、私は自然栽培派だと公言し有機栽培を否定するようなことを言ったというのです。それを聞き、私なりに、今回文章にしてみました。

自然栽培とはその概念がはっきりせず、ちょっととまどってしまうのですが、自然の力をいかに引出し、肥料、農薬をまったく利用しない農業。

有機栽培(JAS有機)は、国際的に基準があり(国際コーデックス)自然循環型の農業、私の行っているのがこの栽培法。

どちらかを決めるのはお客様ですが、過去に堆肥だけを投入して米を作った結果、倒伏し、乳白粒が多い米が出来ました。そんなお米は決して美味しくありません。

苦い経験から、毎年のように、土壌分析を行い、特別栽培米なら、熔成燐肥を、有機米ならグアノ(鳥やコウモリの糞が堆積したもの)や草木カリを投入して米を作っています。全く肥料を投入しないのは、持続的な農業が出来ないと思っています。また、土壌から搾取したものは返さないと継続出来ないとも思っています。品質、味、そして収量も向上するように努力するのが、農家の使命であるとも。

